

平成19年産水稻の8月15日現在における作柄概況（徳島県）

〔 作柄概況の発表は、出穂が完了して穂数、もみ数等が確定する時期以降となっています。本年の8月15日現在については、早期栽培が作柄概況、普通栽培は生育の良否を発表しています。 〕

概要

- 1 早期栽培の作柄は、「やや不良」が見込まれます。
- 2 普通栽培の生育は、「やや良」の状態推移しています。

解説

1 早期栽培

(1) 田植えは、3月下旬の気温が高かったことから平年に比べて3日早くなりました。4月に寒気の流れ込みもあり生育の遅れがみられました。

その後、天候に恵まれ順調に推移していましたが梅雨による日照不足の影響がみられ出穂最盛期は、平年に比べ3日遅くなりました。

(2) 茎数は、分けつ期に日照が平年を大きく上回ったためやや多くなりましたが、有効穂数は、県南部で遅れ穂がやや多く無効穂となり「平年並み」となりました。1穂当たりもみ数は、7月上中旬の日照時間が少なかったこと等から「やや少ない」となり、全もみ数も「やや少ない」となりました。

(3) 登熟は、出穂期の台風による穂ずれの影響がみられるものの「平年並み」が見込まれます。また出穂の遅れから、8月15日現在の刈取済み面積割合は7%にとどまっています。

(4) 被害状況をみると、気象被害は、出穂前の梅雨による日照不足や台風による穂ずれによる変色もみが多くみられます。

病害は、いもち病はやや少なく、現在の気温が高温で推移しているため紋枯病が平年並みの発生となっています。

虫害は、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の活動が活発で食害がみられ、カメムシは7月下旬頃まではやや多く発生していたものの、8月の台風第5号以降比較的少なくなっています。

このことから、総じて被害は平年に比べて「やや多い」で推移しています。

(5) 以上のことから、早期栽培の作柄は、「やや不良」が見込まれます。

表1 早期栽培の作柄概況

区分	田植期			出穂期			刈取期			穂数の多 少	一もみ当数の多 り少 (平年比較)	全もみ数の多 少	登熟の良 否	被害の多 少	作柄概況	
	最盛期	最盛期の遅速		最盛期	最盛期の遅速		最盛期	最盛期の遅速								刈取面積割合
		平年比較	前年比較		平年比較	前年比較		平年比較	前年比較							
県計	4/15	3	4	7/17	3	1	7	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み	やや多い	やや不良
北部	4/24	1	2	7/19	3	0	0	やや多い	少ない	やや少ない	平年並み	やや多い	やや不良
南部	4/12	3	4	7/15	2	2	10	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み	やや多い	やや不良

注：1 「 」は平年・前年に比べ早いことを表します。

：2 「...」は調査日現在で最盛期（50%）に達していないことを表します。

2 普通栽培

- (1) 田植えは、苗の生育が順調であったことから平年に比べ1日早くなりました。
- (2) 田植期以降、日照時間が平年を上回り、分けつが旺盛となり茎数は平年に比べ「やや多い」となりました。草丈は、平年並みですが全体的にみると草勢もしっかりしており台風による影響もあまりみられませんでした。
- 出穂最盛期は、平年に比べて1日遅く、8月15日現在で出穂済み面積割合は76%となっています。
- (3) 被害状況をみると、気象被害では台風による穂ずれもみられますが、やや少なく推移しています。病害は、いもち病がやや少なく、紋枯病が平年並みで推移しています。
- 虫害は、カメムシの発生は8月に入って少なくなっているものの現在の天候が活動助長となっているため今後の被害が懸念されます。
- このことから、被害は総じて「やや少ない」で推移しています。
- (4) 以上のことから、普通栽培の生育は、茎数が平年に比べやや多いこと等から「やや良」の状態です。

表2 普通栽培の生育状況

区分	田植期			出穂期				生育の良否	草丈の長短	茎数の多少	被害の多少
	最盛期	最盛期の遅速		最盛期	最盛期の遅速		出穂済み面積割合				
		平年比較	前年比較		平年比較	前年比較					
	月日	日	日	月日	日	日	%	(平年比較)			
県計	5 22	1	4	8 5	1	1	76	やや良	平年並み	やや多い	やや少ない
北部	5 23	1	3	8 5	2	0	76	やや良	平年並み	やや多い	やや少ない
南部	5 16	2	2	8 8	4	1	76	やや不良	平年並み	やや少ない	平年並み

注：「」は平年・前年に比べ早いことを表します。

用語解説

- (1) 早期栽培 台風の影響を受けやすい時期に出穂期(しゅっすいき)となることを回避する等から、8月末頃までに収穫する目的で作付けされている栽培方法です。
- (2) 生育の良否 草丈の長短、茎数(けいすう)の多少等の実測結果を基に、生育の遅速、被害の発生程度等を総合的に検討し、8月15日現在における生育状況を調査したものです。従って、生育の良否は稲体の状態を示すもので、作柄を予測したものではありません。
- (3) 穂数 出穂した全ての穂の、単位面積当たりの数です。穂数は、収量決定に当たって重要な要素の一つです。
- (4) 全もみ数 単位面積当たりの、全てのもみ数のことです。収量決定に当たって、極めて重要な要素です。
- (5) 登熟 開花、受精したのち、実が肥大し熟れていくことを登熟といいます。
気象条件、病虫害が登熟に与える影響は大きくなります。



図1 気温の推移

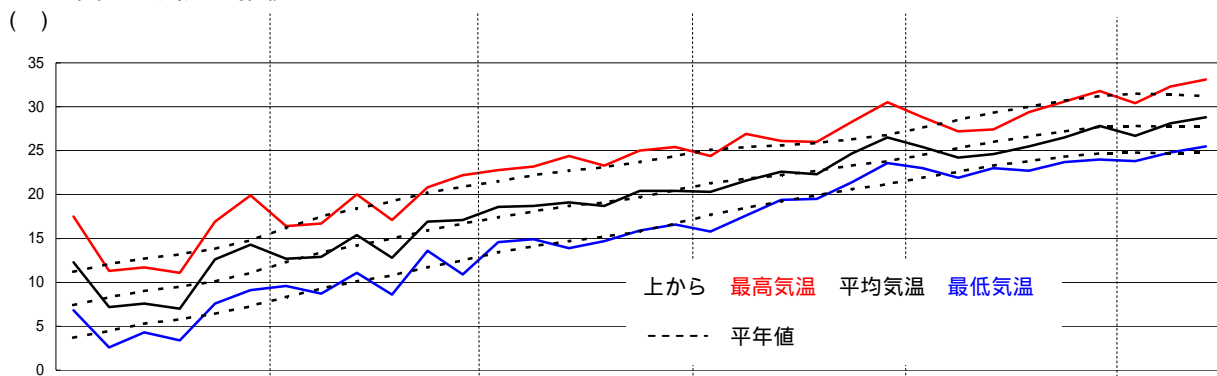


図2 日照時間の推移

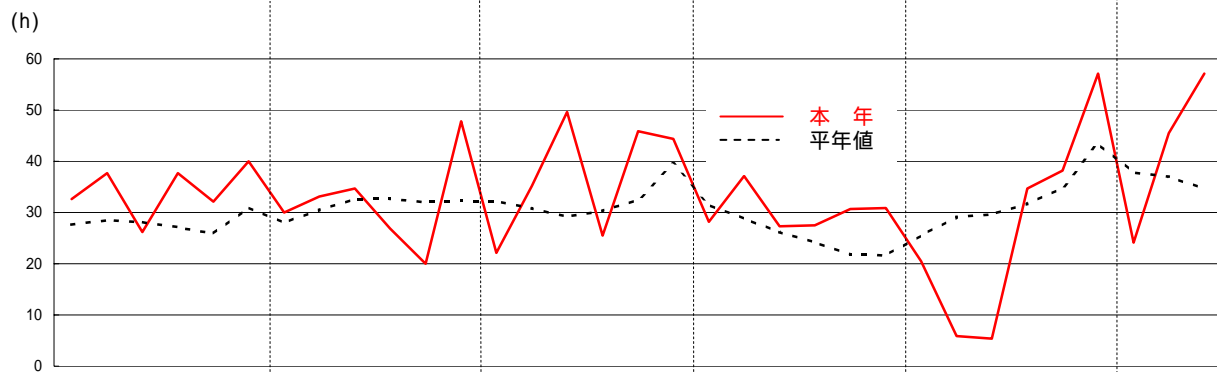
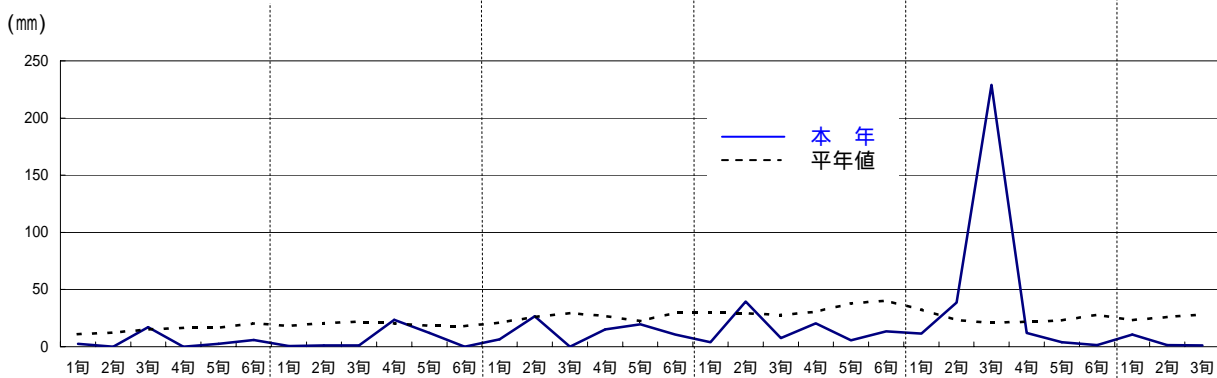


図3 降水量の推移



	3月	4月	5月	6月	7月	8月
早期栽培		■ ● ◆ 田植最盛期 4 / 15			■ ● ◆ 出穂最盛期 7 / 17	■ 刈取始期 8 / 14
普通栽培			■ ● ◆ 田植最盛期 5 / 22			■ ● 出穂最盛期 8 / 5

注：それぞれの耕種期日において、「■」は始期、「●」は最盛期、「◆」は終期を示します。

利用するみなさまへ

- 1 本調査は、作物統計調査の水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、技術指導等の農林水産行政施策のための基礎資料とする事を目的としています。
- 2 早期栽培等の地域は、従来、作況指数で公表していましたが、本年は、収穫が遅れ、台風第4号の影響により乳白米等の登熟障害が例年になく多発している県があるため、収穫量に含める品位（飯用に供し得るもの）について、精査する必要があることから、現段階では作柄の良否による公表としました。
- 3 調査は8月15日現在におけるものであり、計測可能な穂数、もみ数、登熟状況等実測値を基に、生育の遅速、被害の発生程度を総合し、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行ったものです。従って、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。
- 4 田植期(出穂期、刈取期)の始期は田植済み(出穂済み、刈取済み)面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。
- 5 表中で用いた表示区分は、各指標の平年値に対する比率を次のとおりの区分で表したものです。

多 少 (良 否)	少 ない (不 良)	や や 少 ない (や や 不 良)	平 年 並 み	や や 多 い (や や 良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

6 作柄表示地帯

北部とは、徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦郡、名東郡、名西郡、板野郡、美馬郡、三好郡です。

南部とは、阿南市、那賀郡、海部郡です。



《平成19年産水稲関係発表予定》

- 9月(未定) 平成19年産水稲の作付面積及び作柄概況
- 10月下旬 平成19年産水稲の作付面積及び予想収穫量
- 12月上旬 平成19年産水稲の収穫量

～ この情報に関するお問い合わせはこちらへ～

中国四国農政局 徳島農政事務所 統計部 生産流通消費統計課 生産統計係

tel : 0 8 8 - 6 5 3 - 2 1 6 3 fax : 0 8 8 - 6 5 5 - 4 6 5 7

この統計情報は、徳島農政事務所ホームページでご覧いただけます。

<http://www.tokushima.info.maff.go.jp/>